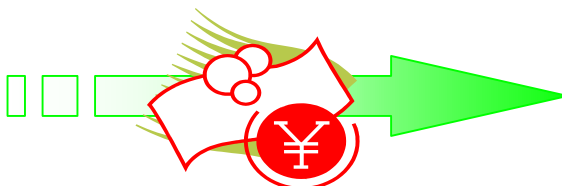
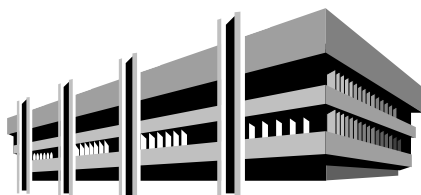


# 信用リスク



予定通りに元本や利息を支払い



元本や利息の支払いが  
予定通り行われないが

例えば、債券の元本や利息の支払が滞ったり、支払不能といった事態が生じるリスクのことです。

特に債券の安全性については、その債券を発行している母体（発行体といいます）の収益力やその信用度に依存しています。

債券の信用度を判断する目安として「格付」という専門用語は最近よく知られるようになりました。

一般に、発行体が元本や利息を約束どおり支払うかどうかの确实性（信用度）が社債の利回りに反映されるといわれています。したがって、信用度の高い企業の社債は、安全性が高い反面、利回りが低くなるのが普通です。一方、信用度の低い企業は利回りが高い反面、リスクも大きくなります。

社債の信用度を検討するためには、社債の募集の際に必ず発行される「目論見書」に必ず目を通すほか、格付も参考にするとよいでしょう。最近では、保険会社の破綻も話題となりました。保険会社が破綻することにより、その保険会社と保険契約をしていた人が予定通りの保障を受けられない、予定通りの年金給付を受けられない、といった事がおきました。これも信用リスクの一つです。

# 商品特性の判断基準～流動性、収益性、安全性から

## 流動性

流動性

- |   |                        |
|---|------------------------|
| A | いつでも換金ができ、即日現金が手に入るもの  |
| B | いつでも解約できるが、現金化は後日になるもの |
| C | 一定の条件がそろわなければ解約できないもの  |
| D | 一切解約が認められないもの          |

一部  
解約性

- |   |                    |
|---|--------------------|
| A | 必要な額だけ一部換金できるもの    |
| B | 額面金額に応じて一部換金ができるもの |
| C | 一部換金ができないもの        |

## 収益性

収益性

- |   |             |
|---|-------------|
| A | 価格変動商品      |
| B | 実績分配（配当）型商品 |
| C | 確実性商品       |
| D | 財布代わりに商品    |

中途解約  
時の収益  
変動性

- |   |                      |
|---|----------------------|
| A | 元金とともに保証されるもの        |
| B | 元金は安全だが、収益力が低下するもの   |
| C | 状況によっては元本しか戻らないもの    |
| D | 中途解約すると元本割れの危険性があるもの |

## 安全性

元本の  
安全性

- |   |               |
|---|---------------|
| A | 元本が保証されたもの    |
| B | 事実上元本が保証されたもの |
| C | 元本の保証がないもの    |

信用  
リスク

- |   |                            |
|---|----------------------------|
| A | 国の保証のもとに発行体自身の信用力がきわめて高いもの |
| B | 第三者機関により守られているもの           |
| C | しくみ上、信用リスクを回避できるもの         |
| D | 購入する前に信用度をチェックする必要があるもの    |

制度への加入に関する最終決定はお客様ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。本資料は、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での岡三証券の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。

## 金利変動リスク～固定金利と変動金利

その時々金利情勢に応じて金利が見直される「変動金利商品」の場合、金利が下がっていく局面で同商品の金利も下がっていきます。逆に、金利が上がっていく局面では、「固定金利商品」の場合、従来の低い金利のままで我慢しなくてはなりません。

固定金利：購入時の金利が満期まで変わらないものをいい、代表的なものとして公社債（変動利付債を除く）などがあげられます。

変動金利：保有期間中でも市場金利の変化に連動して利率変化するもので、中期国債ファンド、公社債投信MMFなどがこれにあたります。

試算）例えば、市場金利が下の表のとおり推移したと仮定。投資元本は1万円。

手数料や税金は考慮していません。

最初から最後まで固定金利型の商品で運用（最初の金利水準に固定されてしまう）

市場金利同じ水準かつ同じタイミングで変動する変動金利型の商品で最後まで運用

最初の5年は変動金利商品で運用。そこで金利はピークと判断し、残りの期間を固定金利商品で運用

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
金利	1.0%	2.0%	3.0%	4.0%	5.0%	5.0%	4.0%	3.0%	2.0%	1.0%
	10,100	10,201	10,303	10,406	10,510	10,615	10,721	10,829	10,937	11,046
	10,100	10,302	10,611	11,036	11,587	12,167	12,653	13,033	13,294	13,427
	10,100	10,302	10,611	11,036	11,587	12,167	12,775	13,414	14,084	14,789

制度への加入に関する最終決定はお客様ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。本資料は、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での岡三証券の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。

## 金利変化と貯蓄選択

固定金利か変動金利かを選択するうえで、目安になるのがその時の市場金利です。

例えば、現在低金利で、近い将来金利が上昇すると予想されるときには、変動金利型の商品で、かつ短期のものが有利となります。

なぜなら、これから金利の上昇が予想されるときに、長期かつ固定金利の商品にしてしまうと、利率が金利の上昇に連動できず、満期まで当初の低い金利のまま運用されることになってしまいうからです。

したがって、将来の金利上昇に対処するためには、一定期間ごとに金利が見直される変動金利型の商品を選ぶか、固定金利型の商品であれば、預入れ期間が比較的短い短期の商品にすることがポイントです。

反対に、現在金利が高く、今後は金利が下がっていく、と予想する場合には、長期国債などの固定金利で、かつ長期の商品が金利環境に適した選択であるといえます。固定金利にすることによって、高金利を長期に維持することができるからです。

制度への加入に関する最終決定はお客様ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。本資料は、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記された意見や予測等は、資料作成時点での岡三証券の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。

## リスクとは？リターンとは？

私たちが投資をする場合、必ず考慮に入れなければならないのが、「リスク」と「リターン」です。

リターンとは金融資産を運用することによって得られる収益のことをいい、大きく分けてインカムゲインとキャピタルゲインの2種類があります。

インカムゲインとは、預貯金や債券の利息や株式の配当などの収益をいい、キャピタルゲインとは投資した金融商品の価格そのものが値上がりしたことによって発生する収益（売買による差益など）のことをいいます。

なお金融商品の価格が下がることによって発生する損失（売買による差損など）のことをキャピタルロスといいます。

一方、リスクは一般的に「危険」と訳されますが、投資の世界では「不確実性」を意味します。つまり値下がりであろうと値上がりであろうと、不確実性が大きいことを「リスクが高い」というわけです。

また、リスクには「信用リスク」（元本や利子の支払いが滞ったり、支払不能が生じるリスク）や「価格変動リスク」（金融商品の保有期間中に金融商品の価格自体が変動するリスク）、「為替リスク」（外貨建の金融商品において、為替の変動により円貨での受け取り金額が増減するリスク）など、さまざまな性格のリスクがあります。

制度への加入に関する最終決定はお客様ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。本資料は、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記された意見や予測等は、資料作成時点での岡三証券の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。

## 価格変動リスク

株式は需給関係その他の要因により価格変動する代表的な金融商品であり、値上がりによる大きな収益が期待できる反面、値下がりによって損失となることもあります。

債券を中途売却する場合にも、価格変動リスクに注意する必要があります。

債券の利率は、基本的に発行される国の金利水準をベースに、その発行体の信用度を加味して決められます。

また、基本的に債券は固定金利型商品（ ）ですので、発行時に決められた利率は満期まで変わりません。

したがって、その国の金利水準が上昇すれば、既に発行されている（低い利率の）債券の魅力は低下し、通常、価格が下がります。

反対にその国の金利水準が下降すれば、既存の（高い利率である）債券の魅力が高まり、通常、その債券価格は上昇します。

## リスクとリターンは表裏の関係

一般的に、リスクとリターンは表裏の関係にあります。

つまりリスクが低ければリターンも低く、リターンが高いほどリスクも高くなるわけです。

したがってより高いリターンを狙うのであれば、安全性をある程度犠牲にしてそれなりのリスクを覚悟すること、つまり「リスク・テイク」が必要になります。

反対に、できるだけリスクを避けようとするならば、小さいリターンで納得しなければなりません。

金融商品を選択する際は、ご自分の資金の性格に合わせて、どれくらいのリスクを受け入れられるか、どのような性格のリスクなら受け入れられるかなどを検討することが大切です。

まわりの金融商品と比べてみて、あまりにも利回りが高い商品……申し上げたように、リスクとリターンは表裏の関係です、あまりにも高い利回りには理由があるはずですよ。世の中そんなにうまい話はないと考えるべきではないでしょうか？

## ポートフォリオ運用 = 分散投資

ポートフォリオ運用とは、ひとことでは分散投資のことです。資産のすべてを同じ種類の金融商品で運用するのではなく、異なる性格を持つ商品に分けて資産形成を進めていくことを意味します。

例えば、退職金などまとまった資金が入ってくれば、定期預貯金や債券といった安全性商品（安定した収益が期待できる商品）と、普通預貯金やMMFなど流動性商品（換金しやすい商品）に資産を割り振ります。

そして、さらに一定額の資産を株式や株式投資信託等の収益性商品（高い収益を狙う商品）へと選択肢を広げます。

このように、流動性、安全性、収益性という性格の異なる金融商品に分散して資産の管理と運用を行っていくことがポートフォリオ運用の基本的な考え方です。

## ポートフォリオの組み方

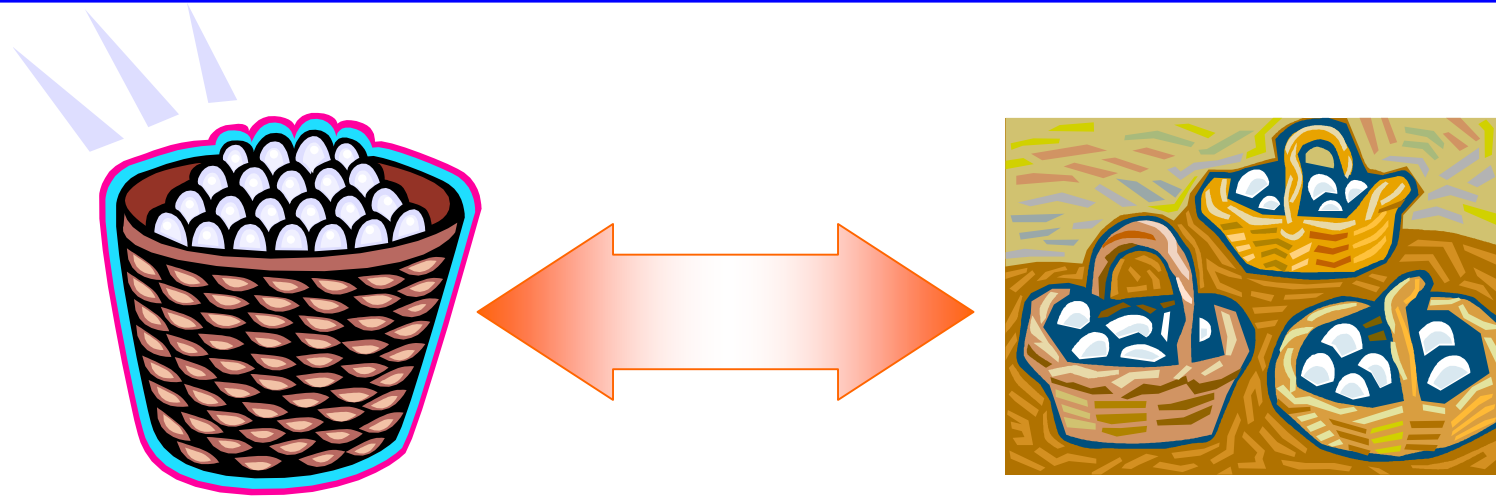
実際にポートフォリオを組む場合、流動性、安全性、収益性の配分内容を決める基準となるのは、ライフプランに基づく「**貯蓄目的**」、「**経済・金利動向**」、「**お客様自身の投資スタンス**」です。例えば、老後の資産運用やその資金作りでは安全性重視の「**堅実型ポートフォリオ**」、将来まとまった支出が予定されている場合には、支払い時期に合わせた積立貯蓄を柱とする「**着実型ポートフォリオ**」、そして資金にゆとりがある、あるいは資金の必要な時期まで時間的なゆとりがある場合には、収益性重視で資産を積極的に増やしていく「**積極型ポートフォリオ**」といった具合です。

制度への加入に関する最終決定はお客様ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。本資料は、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記された意見や予測等は、資料作成時点での岡三証券の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。

## 資産分散～卵をひとつのかごに盛るな

投資の世界には「卵はひとつのかごに盛るな」という言葉があります。卵をひとつのかごに入れておくと、もしそのかごを落としたりしたら、中に入っている卵がすべて割れてしまうかもしれません。一方で、いくつかのかごに卵を分けて入れておけば、たとえ一つのかごを落としても、割れるのはそのかごに入っていた卵だけで他のかごに入っていた卵は割れません。つまりすべての卵が一度に割れてしまうことはなくなります。

投資の世界もこれと同じで、一つの銘柄に集中的に投資すると、その銘柄が値上がりした場合の収益は大きくなりますが、もし、その銘柄が値下がりした場合、大きな損失をこうむることになります。



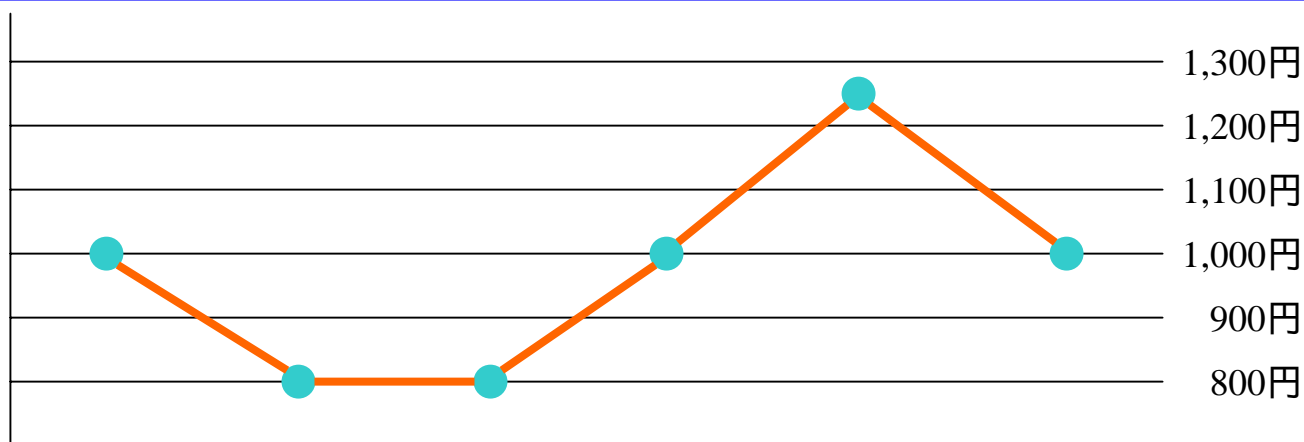
制度への加入に関する最終決定はお客様ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。本資料は、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記された意見や予測等は、資料作成時点での岡三証券の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。

# ドルコスト平均法

ドルコスト平均法とは、値動きのある金融商品（株式など）で、同じ商品（銘柄）を定期的に一定の金額で継続して購入する投資方法をいいます。

この購入方法によれば、価格が高いときには少ない量を、反対に価格が安いときには多くの量を購入することができます。この結果、相対的に平均購入単価を引き下げることができます。

確定拠出年金のように、長期にわたって一定の金額で金融商品を購入しつづける制度において、仮に同一銘柄に投資しつづけた場合、このドルコスト平均法がピッタリと当てはまります。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	トータル	平均
投資金額	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	60,000円	10,000円
1口当り単価	1,000円	800円	800円	1,000円	1,250円	1,000円	-	約952円
購入口数	10口	12.5口	12.5口	10口	8口	10口	63.0口	10.5口

制度への加入に関する最終決定はお客様ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。本資料は、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記された意見や予測等は、資料作成時点での岡三証券の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。

## 「投資」と「投機」の違い

一般的に言われていることとして(あくまでもイメージとして)、

「投機」の方が「投資」よりも予想が困難で、利益獲得に関して不確実なものへ資本を投下する。  
決定のプロセスに違いがある。

- ・「投資」の方が多くの情報源から有効な情報を収集し、調査・分析に時間をかけて慎重に決定を行う。
  - ・「投機」は限定的な情報を基に、少ない選択肢から決定する。
- 「投資」は長期的な、「投機」は短期的な行為

## 年金資金を運用するには

しかし、「投資」と考えられている投資信託や株式へ資金を投下する人の中にも少ない情報を基に、投資対象に関する調査・分析に時間をかけることなく、また、投資決定に対して自信もなく、短期的売買を行う「投機的投資」を行っている人は決して少なくありません。

年金( = 将来のためのお金)を運用するのですから、投機的な行為をするのではなく、「投資」を行うことが大前提と言えます。

## 格付の定義

格付とは企業等の元利金支払能力を簡単な記号で表したものです。

通常はアルファベットで表しますが、細かく示すために+、-等の記号を使って表わします。

	日本格付 投資情報 センター (R&I)	日本格付 研究所 (JCR)	Moody's	S & P	元利払いの確実性(JCRの例)
第1ランク	AAA	AAA	Aaa	AAA	債務履行の確実性が最も高い。
第2ランク	AA	AA	Aa	AA	債務履行の確実性は非常に高い。
第3ランク	A	A	A	A	債務履行の確実性は高い。
第4ランク	BBB	BBB	Baa	BBB	債務履行の確実性は認められるが、上位等級に比べて、将来債務履行の確実性が低下する可能性がある。
第5ランク	BB	BB	Ba	BB	債務履行に当面問題はないが、将来まで確実であるとは言えない。
第6ランク	B	B	B	B	債務履行の確実性に乏しく、懸念される要素がある。
第7ランク	CCC	CCC	Caa	CCC	現在においても不安な要素があり、債務不履行に陥る危険性がある。
第8ランク	CC	CC	Ca	CC	債務不履行に陥る危険性が高い。
第9ランク	C	C	C	C	債務不履行に陥る危険性が極めて高い。
第10ランク		D		D	債務不履行に陥っている。
付加記号等	+ , -	+ , -	1, 2, 3 (Aa ~ Bの間)	+ , -	AAからBまでの格付記号には同一等級内での相対的位置を示すものとして、プラス(+ )もしくはマイナス(- )の符号による区分がある。

制度への加入に関する最終決定はお客様ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。本資料は、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での岡三証券の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。